

開発途上国における地震被害軽減にむけた耐震補強技術の開発研究

このテーマのキーワード	地震防災、途上国、耐震、組積造、補強技術
関連するSDGs 開発目標	   

研究内容(社会背景・目的、概要、期待される効果)

(社会背景・目的)

開発途上国では地震の度に甚大な被害を被っている。中でも人的被害の大部分は建物の崩壊によるものであり、特にノンエンジニアド建築と呼ばれる技術者が関与していない建築物による被害が大きい。ノンエンジニアド建築における地震被害軽減に向けた実践的な耐震性向上の技術普及は喫緊の課題である。



2015年ネパール地震での被害状況

(概 要)

1. レンガ造組積造を主な対象として実践的な耐震性向上の建築工法に関する研究
2. 耐震性向上の建築工法の普及方策の研究
3. 地震多発国における基礎データの研究



ローコスト補強技術による振動台実験の模様(人的被害軽減)

(期待される効果)

これらの研究を通して、途上国で普及しうる耐震工法の開発、そしてノンエンジニアド建築の耐震性向上というボトムアップの一環を担う。

想定される適用分野・用途・業界

- 建設業界(コンクリートブロックなど)
- 海外支援団体(JICA, NGOなど)

産業界へのアピールポイント

- 日本の培ってきた技術を海外へ展開

建設学科 今井 弘 教授

このテーマに関するお問合せ
E-mail : mric@iot.ac.jp

ものづくり研究情報センター
TEL : 048-564-3880

進化する技・深化する知
 **ものづくり大学**
INSTITUTE OF TECHNOLOGISTS